

2022年(令和4年)

1月例会

日時：1月22日(土)14時より
講師：摂南大学(名誉教授) 瀬戸宏
題目：シェイクスピア『ヴェニスの商人』受容の日中比較
司会：日本大学(非常勤) 田中徳一

3月例会

日時：3月19日(土)14時より
講師：山口大学 外山健二
題目：ポール・ボウルズと〈翻訳文学〉
司会：東京大学(名誉教授) 井上健

INSIDE THIS ISSUE

1. 1月・3月例会案内(オンライン開催)
2. 例会要旨等
3. 東京支部短信

幹事会開催のお知らせ

第3回幹事会

2022年3月例会終了後オンラインにて開催します。
(幹事会構成員は、幹事、支部長、事務局長、
各種委員会委員長、会計、会計監査です)

役員連絡会開催のお知らせ

2022年1月例会前13時30分より、オンラインにて開催します。

(役員連絡会の構成員は支部長、事務局長、会計担当、事務局委員、各種委員会委員長です。委員会の委員、幹事は含まれませんが、陪席を歓迎します)

1 月例会発表要旨

シェイクスピア『ヴェニスの商人』受容の日中比較

摂南大学（名誉教授） 瀬戸 宏

本講演では、シェイクスピア『ヴェニスの商人』の日本と中国の受容に焦点を当て、シェイクスピアを中心とした西洋演劇の東アジアにおける受容をめぐる問題を比較分析し、考察してみたい。

最初に、これまで日本と中国のシェイクスピア受容について時代区分ごとに問題点を指摘し、私自身の説を紹介したい。

次に、日本、中国での『ヴェニスの商人』受容の具体的な様相について、上演（演劇）を中心に考察する。『ヴェニスの商人』は、かつては日本、中国ともにシェイクスピア作品の中で最も歓迎された作品であり、現れている問題も多岐にわたっている。

日本と中国のシェイクスピア受容の共通点は、両国ともシェイクスピア作品を生み出し育ててきたイギリスなど西洋文化圏と異質な要素が強いこと、初めからシェイクスピアは西洋文学・演劇の偉大な劇作家であると認識され、その立場に基づき紹介がなされたこと、受容の過程で特に初期の段階で自国の文化伝統の強い影響を受けたことである。また、日本、中国の文化、社会環境を反映した相違点もある。たとえば、中国では 1930 年代からユダヤ人であるシャイロックの悲劇性に焦点があてられていたが、日本ではシャイロックの悲劇性について戦前までほとんど注目されていなかった点が挙げられる。『ヴェニスの商人』受容において共通点や相違点が発生した過程を明らかにするだけでなく、包含する問題も共に考えてみたい。

参考文献：瀬戸宏『中国のシェイクスピア』（松本工房 2015 年）

3 月例会発表要旨

ポール・ボウルズと〈翻訳文学〉

山口大学 外山健二

アメリカの作家ポール・ボウルズ (Paul Bowles, 1910-1999) は、翻訳者でもある。北アフリカのモロッコで作家活動し、〈翻訳〉も手掛けた。

〈翻訳〉をめぐる議論には〈文化翻訳〉論の立場がある。ある言語を別言語に訳す〈言語翻訳〉というよりはむしろ、異文化を〈翻訳〉し、歴史・政治・思想・宗教などの要素を取り入れながら文化的意味を見いだしてゆく〈文化翻訳〉である。こう考えると、文化接触的な〈翻訳〉論が射程に入る。

このような〈翻訳〉論を踏まえ、本発表で注目すべきことは、モロッコに住む現地のムスリム (イスラーム教徒) のラルビ・ラヤチやモハメド・ショークリなどによって語り継がれる口語アラビア語による物語を、アメリカ人ボウルズが英語に〈翻訳〉する点である。

ボウルズの〈翻訳〉作業には、〈翻訳〉する側のアメリカ文化と、〈翻訳〉される側のモロッコ文化とが横たわる。その結果、両文化間にまたがる〈翻訳〉における文化間交渉やその文化的差異が生み出されている。これらの〈翻訳〉過程を通じて、ボウルズによる〈翻訳文学〉がアメリカで出版され、流通する。

本発表では、このボウルズの〈翻訳〉というプロセスが支配する世界の解明に努め、英語圏アメリカとイスラーム圏 (非英語圏) モロッコの間を介する〈翻訳文学〉を軸に、新たな文化が成立する可能性を探り、未来への新たな〈翻訳〉論の可能性を追究したい。

東京支部短信

当面の例会運営に関するお知らせ

- ①例会開催の概要は、これまで印刷物のニューズレターで年2回、3月と9月にお知らせしてきましたが、今後は、年4回に分けてホームページに情報を掲載する予定です。3月に4月、5月分の、5月に7月、9月分、9月に11月、12月分、さらに11月には翌年1月、3月分の例会情報（日時、発表者名および題目、要旨）を掲載します。
- ②オンラインによる例会開催については、当面、以下のように連絡する予定です。該当月の例会開催日の1週間前に、支部会員向け一斉メールで、開催内容（ホームページ掲載と同様）とともに、当日 Zoom に入室するための URL を送付します。その際、ホームページにも、会員に入室用 URL を送付した旨を掲載しますので、メール不着の場合は事務局にご連絡ください。
- ③例会開催時は、従来配付していた発表者の資料は、画面共有で見えることを基本とします。発表を希望される方は、パワーポイントやワードなどで、当日の資料を作成することをご了解ください。なお、資料は、発表原稿そのものではないものとします。また、発表者は、音声のみの参加ではなく、カメラ使用を基本とします。
- ④Zoom への入室は、メールで送付された入室用 URL をクリックすれば可能です。当日の参加に際しては、発表中はカメラ・音声をオフにさせていただきます。

月例会発表者募集

支部月例会の発表者を募集しています。申し込みは支部事務局（hikakubungaku-tokyo@gmail.com）に氏名、所属、題目、連絡先（メールアドレス、電話）を明記したうえで、600～800字の要旨を添えて電子メールで送信、または郵送でお願いいたします。支部役員に託されても結構です。発表時間は45分（質疑応答を除く）です。

東京支部事務局より「お知らせ」の配信について

東京支部では支部会員みなさまにメールマガジンの「お知らせ」をお届けしています。原則として毎月1日発行で、例会や支部大会などの情報を掲載しています。これまでお手元に届いていない方は、日本比較文学会東京支部の支部会員のページの「お知らせ」のウェブサイト（<https://www.hikakutokyo.com/mm>）のフォームにご記入のうえ「配信希望」をクリックして下さい。メールアドレス変更の場合も、お手数ですが、新アドレスで再登録をお願いします。

日本比較文学会東京支部ニューズレター 132号

発行人：佐藤 宗子

編集委員会（編集担当）

委員長：椎名 正博

委員：鈴木 美穂 堀江 秀史 安元 隆子 庄子 ひとみ

事務局

事務局長：源 貴志 会計担当：南平 かおり

事務局委員：川野 礼音 小泉 泉 土田 久美子

芳賀 理彦 畑中 健二 蒔田 裕美

JCLA

日本比較文学会東京支部

事務局住所

〒162-8644

東京都新宿区戸山 1-24-1

早稲田大学 文学学術院

源 貴志研究室

TEL：03-5286-3725